

最近のトピックス

新潟大学医歯学総合病院の歯科医師臨床研修における現状と展望  
Current and Prospective View on Postgraduate Dental Training Program in Niigata University Medical and Dental Hospital

新潟大学医歯学総合病院 歯科総合診療部  
小林哲夫, 藤井規孝, 中島貴子, 石崎裕子, 魚島勝美  
General Dentistry and Clinical Education Unit,  
Niigata University Medical and Dental Hospital  
Tetsuo Kobayashi, Noritaka Fujii, Takako Nakajima,  
Hiroko Ishizaki, Katsumi Uoshima

【はじめに】

平成 18 年度に新歯科医師臨床研修制度がスタートして今春で 3 年目を迎える。これまでに本院で研修を修了した研修歯科医は総計 106 名にのぼる。今後、同研修制度をより実効性のあるものとするために、現在、様々な面から調査や評価が成されている。そこで本稿では、本院臨床研修の現状として特に、採用試験, 評価システム, および研修歯科医のストレスについて概説したい。

【採用試験】

新歯科医師臨床研修制度では、殆ど全ての歯学部卒業者が臨床研修の対象となる。したがって、卒前臨床実習の質が共用試験システム (CBT・OSCE) により担保されるのと同様に、臨床研修でも質の担保のための採用試験が必要になると考えられる。著者らは、研修歯科医の採用試験として、ミニワークショップ, 小論文, 実技を実施して、それぞれの成績と 1 年後の臨床研修総括評価結果との相関について検索した。その結果、ミニワークショップ成績は臨床研修の知識・態度評価結果と強い正の相関を示した<sup>1)</sup>(図 1)。また、ミニワークショップは面接と比べて態度評価や運営面において有効であることも示された<sup>1)</sup>。以上の経緯により、本院では研修歯科医の採用試験にミニワークショップを導入している。

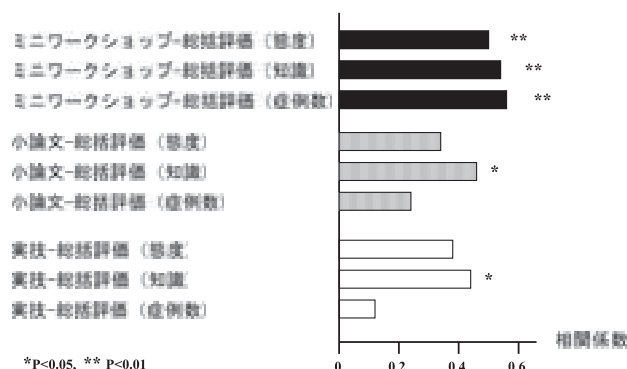


図 1 採用試験成績と臨床研修総括評価との相関  
小林ら<sup>1)</sup>から引用改変

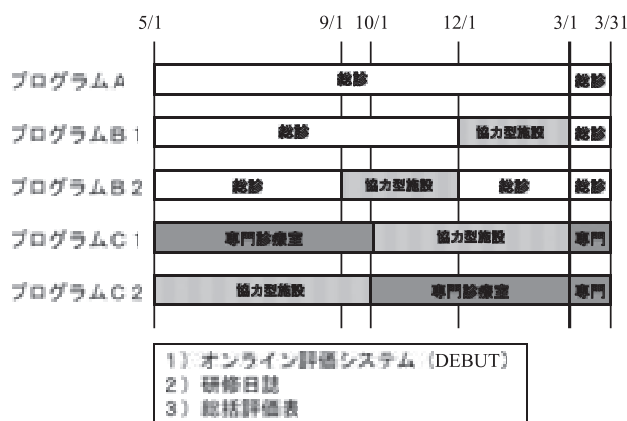


図 2 平成 19 年度本院歯科医師臨床研修の評価システム

【評価システム】

本院での研修評価システムは、平成 18 年 3 月の新歯科医師臨床研修評価基準検討会報告書に基づいて慎重に検討され、構築されている。すなわち、「歯科医師臨床研修必修化に向けた体制整備に関する検討会」報告書で提示された到達目標 (基本習熟コース, 基本習得コースで各 6 項目) に対する達成度, ならびに臨床歯科医としての適性に関して、それぞれ責任指導歯科医が、1) オンライン歯科臨床研修評価システム (DEBUT), 2) 研修日誌, 3) 総括評価表, を用いて評価を行う (図 2)。評価ブロック期間中は形成的評価が非常に重要になることから、DEBUT や研修日誌を用いて研修の進捗状況が詳細に把握される。その際、修了基準に不足する症例の準備等ができるよう配慮されている。また 3 月には、責任指導歯科医が前月までの研修症例数, 到達目標の達成度, 研修態度, ならびに臨床歯科医としての適性等を

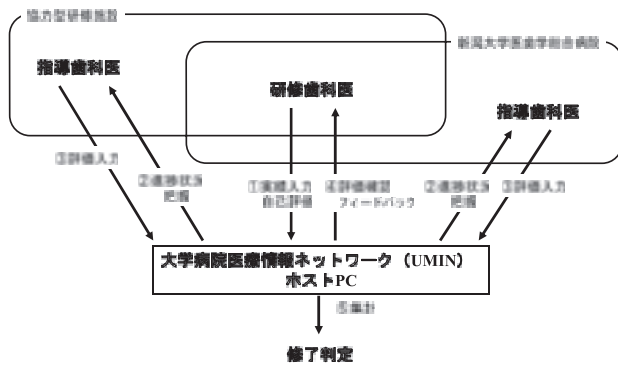


図3 オンライン歯科医師臨床研修評価システム (DEBUT) の概要

総合的に評価し、総括評価表を作成する。これらの評価結果は、歯科臨床研修実施専門委員会にて審議され、歯科臨床研修管理委員会において最終的な修了認定がなされる。

前述のDEBUTは、国立大学歯学部附属病院長会議において提言されたものであり、到達目標達成度の評価法として有効なツールと考えられる(図3)。平成19年度までは3段階評価(修得・体験・未体験)で実施されていたが、今年度からは5段階評価(修得・体験・介助・見学・未体験)に変更され、有意義な介助や見学も評価対象として組み込めるように改善された。更に、各症例での研修歯科医のコメントに対して、指導歯科医が回答入力できるような新機能も追加され、運用面での更なる充実化が図られてきている。

### 【研修歯科医のストレス】

新歯科医師臨床研修制度の発足以降、歯科診療に従事しようとする歯科医師は1年間以上の臨床研修が義務付けられた。歯科医師は従来からストレスの多い対人医療専門職であり、社会人としてのスタートである研修歯科医が精神的に安定して研修に専念できる体制の整備は重要である。そのため、厚生労働科学特別研究事業による

研修歯科医のメンタルヘルスに関するアンケート調査が行われた。全研修歯科医の約1/4からの回答で、全国一般の標準的集団と比べて健康リスクは殆ど変わらず、歯科大学病院よりは一般病院歯科の方が研修歯科医のストレスが多くなる傾向が認められた<sup>2)</sup>。本院でも同様な職業性ストレスに関するアンケート調査を年2回に分けて実施した。その結果、臨床研修の時期によって研修歯科医の抱える職業性ストレスも変化し、研修後半ではストレスが改善される傾向が示唆された。これは、診療経験の積み重ねや研修システムへの適応が結果として影響していることが考えられる。今後も包括的・多角的な調査が必要と思われる。

### 【今後の展望】

採用試験および評価システムについては、現システムの有用性の検証を経時的に行っていく必要があると思われる。すなわち、前者では臨床研修総括評価結果と採用試験結果との相関解析を大規模集団で行うことが重要であり、そのためのデータの蓄積が必要不可欠である。また後者でも、評価に関わる指導歯科医からの意見をより多く集約して、現場に反映させていくことが求められる。研修歯科医の職業性ストレスについては、健康リスク度の状況によっては、メンター制度の設置などの適切な対策法を講じる必要があると考えられる。

### 【参考文献】

- 1) 小林哲夫, 魚島勝美, 藤井規孝, 中島貴子, 石崎裕子, 小野和宏, 宮崎秀夫: 本院臨床研修歯科医採用試験におけるミニワークショップの効果, 日本歯科医学教育学会雑誌, 22: 281-288, 2006
- 2) 秋山仁志: 修了研修歯科医からの意見・要望 / 研修制度におけるストレスマネジメント, 第26回日本歯科医学教育学会総会および学術大会プログラム・抄録集, 43, 2007